アサリ稚貝増殖試験

水産技術開発センター　企画・栽培養殖部

【背景・目的】

近年，ナルトビエイ等による食害や遊漁者による潮干狩り等の原因により，県内各地のアサリやハマグリ，バカガイ等の二枚貝資源が極端に減少していることから，(独)水産総合研究センター増殖研究所が開発した貝殻や砂利を使用したネットによるアサリ稚貝の増殖試験を鹿児島湾海域で実施する。

【普及の内容・特徴】

本県では，姶良・伊佐地域振興局が重富地域で平成25年度から同様の試験に取り組んでいるが，全国の事例を踏まえ，天然のアサリ親貝の生息状況及びアサリ浮遊幼生の出現状況を確認した上で，当該ネット設置の適地選定方法及び設置時期等についてのマニュアル作成を実施する。

１　分　布　試　験……ネット外の天然アサリ親貝の分布について調査
２　生　長　試　験……アサリ個体の生長(殻長)について調査
３　適　地　試　験……地形，底質，干出時間等について調査
４　管理手法作成……適地選定方法，設置時期，管理手法等について記述

【成果・活用】

１　設　置　環　境

平成26年６月に当該ネットを今和泉小学校下の海岸に設置する際に，地元漁協に予めアサリの生息状況を確認した上で設置した。

また，底質及び干出時間を調査するため，同地内で泥質及び砂質に分け，さらに，水深の浅い部分と深い部分に分けて当該ネットを設置した。

ネット内のアサリ稚貝の親貝となる天然アサリの生息状況についても同時に調査を実施したが，殆ど分布が確認されなかったが，これは，ナルトビエイ等による食害と推測される。

追跡調査の結果から，底質が砂質より泥質の方が入網状況が良く，また，干出時間が長い(小潮時の干潮時に干出する場所)場所の方が，水深が深い場所より入網状況が良い傾向がみられた。

さらに，１袋当たりの入網状況については，少ない袋で10個未満，多い袋で50個程度と底質や干出時間により，差がみられたほか，アサリ稚貝のほか，バカガイの稚貝と思われる二枚貝も確認された。

２　生　　長

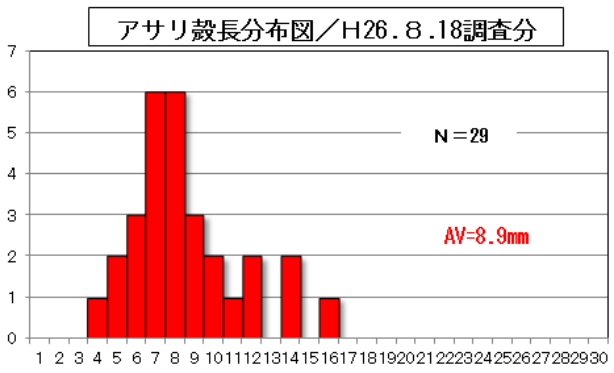
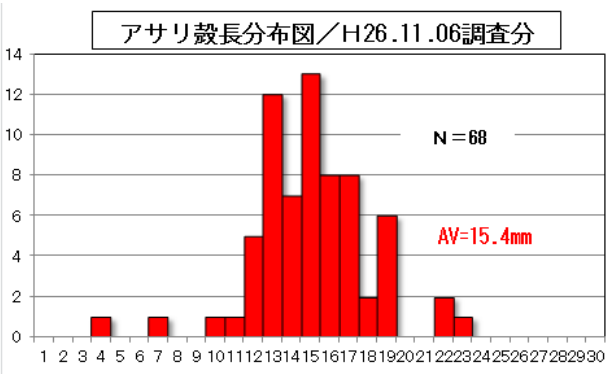
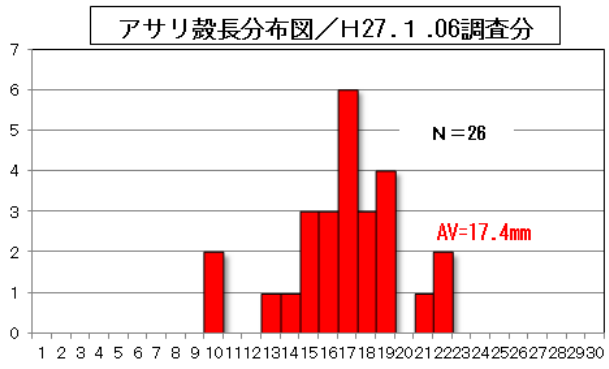
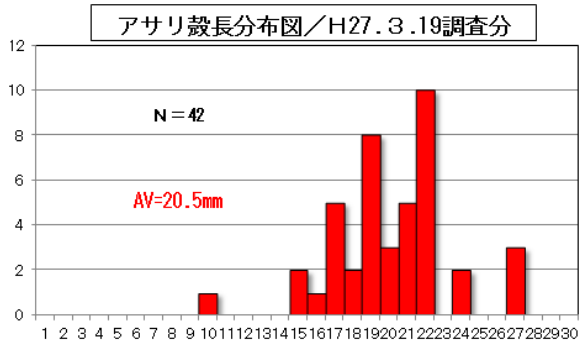
平成26年６月に当該ネットを設置し，その後，毎月１回の追跡調査を実施したところ，知見同様，春季産卵群及び秋季産卵群の２群が確認された。

月別の平均殻長でみると，８月8.9㎜，11月15.4㎜，１月17.4㎜，３月20.5㎜と冬場の生長が鈍るものの，１年でほぼ２～３倍に生長しており，これを産卵群別にみると，春季産卵群については，当該ネットの設置時期が主産卵期より遅かったため，入網個数が若干少なく，また，生長が遅れたものの，順調に生長が確認され，８月には，４～16㎜となり，１年後の３月下旬には，15～27㎜であった。

一方，秋季産卵群については，10月頃から３㎜程度の個体が確認され始め，半年後の３月下旬には，推定10～15㎜であった。

３　管理手法作成

１ヶ月若しくは，１潮に１回程度，設置したネットを引き上げて，砂による埋没防止を図るなどの管理を施さなければならないなど，鹿児島湾海域におけるアサリ稚貝増殖手法として，親貝となる天然アサリの生息状況及び当該ネットの設置に適した地形･底質･干出時間及び管理手法等について記載したマニュアルを作成した。

平成26年度アサリ稚貝トラップ試験／指宿市岩本　今和泉小学校下

No.１～H26.６.25(水)５袋設置　→　No.２～H26.６.30(月)６袋再設置
No.３～H26.10.９(木)５袋設置　※ヒトエグサ採苗網　H26.９.25(木)→　H26.10.23(木)再設置